

日総工産株式会社

【2020年3月期 第1四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）主な質疑応答】

2019年8月7日開催

当内容は全ての質疑応答の内容を記録したものではありません。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

Q1:自動車向けの需要が増加しているとのことですが、この需要の増加は他社を含めた派遣全体が増えてきている中で御社のシェアが伸びているのですか。

A1:前期は派遣全体が増えるという傾向にありましたが、今期は必ずしもそうではなく、メーカー様も去年のようなトレンドで生産計画が動いていないと発表されております。しかし、ご説明しましたように、新車投入による増員があったり、労働契約法の影響により期間工から派遣へ切替える企業が増加しているために派遣市場としての需要には大きな変化はございません。ただ、このように需要に大きな変化はないものの、顧客では、きちんと対応する業者に絞って発注するという流れになってきております。

Q2:説明資料 P10 に次期アカウント企業への配属とありますが、この次期アカウント企業は今期ぐらいからアカウント企業となる候補ということでしょうか。

A2:今期からということではありませんが、当社では既に次期アカウント候補企業様とのコミュニケーションをとっており、既存のアカウント企業グループに新たに加わる企業として、人員を配属しております。この次期アカウント企業グループの業種としては、広義となりますが、自動車関係、車載向け電子部品が中心となる見込みでございます。

Q3:説明資料 P19 にある協業について、どのような内容でしょうか。

A3:説明いたしました通り、協業を行うことに基本合意をしたというものであり、具体的なことは決定しておりません。

Q4:説明資料 P20 にあります日系人のトライアル作業所とはどのようなものなのでしょうか。

A4:このトライアル作業所は、現在、機械部品メーカー内で請負作業所として稼働しております。当作業所は半年ぐらい前より稼働を開始しており、非常に結束力があり、勤勉で今まで1名も離職しておりません。実際に活用するにあたっては、例えば作業標準書をきちんと母国語で作成することも必要となりますので、これらの対応などもこのトライアル作業所で実践しております。

Q5:電子デバイスは第2四半期ではかなり生産が上がり、おそらく第3四半期まではある程度、御社の想定通りだと思いますが、それ以降のフォーキャストについて聞いておられるのでしょうか。

A5:今後の電子デバイス関係顧客の動きについてですが、育成した技能社員、製造スタッフを配属しておりますので、ある程度の動向についてはお伺いしております。また、単なる生産対応というのではなく、顧客における構造改革の中で当社を活用して頂いていることからフォーキャストをお伺いしております。

以上